

第11回病診連携委員会要録

日 時 平成22年4月26日（月） 午後7時30分
場 所 浪速区医師会 会議室
出席者 浪速区医師会 : 8名
愛染橋病院 : 2名
大野記念病院 : 2名
四天王寺病院 : 2名
多根総合病院 : 2名
富永病院 : 1名
浪速生野病院 : 1名
大阪市消防局 : 1名

議 題

1. 第10回病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認が行われた。

2. 病診連携委員会のアンケート結果について

アンケート結果は次のとおり。

質問1 ブルーカードを实际利用した施設の意見について

意見は次のとおり。

- ・運用ケースがまだ少ないので評価するにいたらない。
- ・制度やスタイルが頻回に変わると周知や対応が困難になることが心配されるので、しばらくは変更することなく運用するのが良い。

協議の結果、問題があった場合にマイナーチェンジのみ行うこととした。

質問2 ブルーカードの拡大の方向性について

回答数、意見は次のとおり。

適応範囲の拡大…6例 エリアの拡大…5例 その他…3例

- ・適用については主治医に一任の方向性があるのでこれ以上の適用拡大は必要ない。
- ・まだ経験症例が少ないので急いで拡大する必要はない。

協議の結果、現在運用開始5カ月で52例の登録があり、2例の使用経験がある。ここで適用拡大しても、急激に利用が増えるとは考えにくいので、今後も拡大にむけての協議は続けていくこととなった。

質問3 ブルーカードに主治医意見書などの情報を添付することについて

回答数は次のとおり。

主治医にまかせる…8例 義務化する…5例 その他…1例

協議の結果、「主治医に任せる」との意見が多数のため、当面は義務化せずに行うこととした。

3. 「ブルーカードシステム一般外来患者への適用について」の説明会（4月19日〈月〉）の報告について

午後8時より医師会会議室でA会員対象に説明会を行った。

ブルーカードの使用法や運用実績の結果報告等を説明した後、外来患者への適用拡大に向けての注意事項を中心に説明した。

特別な質問や意見はなかったが、定期受診患者のみが対象であることを再度徹底した。また、システムの使用は、一次救急の場合ではなく、重篤な障害や生命の危機に瀕するような可能性がある場合に限ることを説明した。

なお、参加人数は12名であった。

4. 救急指定病院へのアンケート結果について

各病院の回答は次のとおり。

▷ 浪速生野病院（平成21年1月～12月）

受け入れ拒否件数 265件（27.8%）

拒否理由 対応中（医師対応不可、看護師対応不可、救急対応不可、手術室対応不可など）48件、満床47件、専門外（緊急処置が必要な場合の専門医が不在も含む）41件、飲酒27件、精神疾患16件

かかりつけ患者は、できる限り対応するようにしている。ブルーカードの登録者はかかりつけ患者扱いにしている。

地域連携室が稼働している時間以外は、対応困難なケースは増える。

▷ 多根総合病院（平成20年5月）

受け入れ拒否件数 71件

拒否理由 対応中23件、満床27件、専門外16件、その他5件

医師同士の相談があれば、情報の伝達が詳細で正確なため受け入れやすくなる場合もある。

▷ 富永病院（平成21年4月～平成22年3月）

受け入れ拒否件数 563件

拒否理由 対応中116件、満床33件、専門外181件、飲酒168件、その他65件

脳、循環器以外に重度の合併症なく、透析患者でない場合は、基本的に受け入れ可能である。

▷ 愛染橋病院

産婦人科、小児科が救急対応しているのみである。

▷ 大野記念病院

実績以外のデータがない。

5. 消防局の救急搬送等の現状について

▷ 大阪市消防局からの回答は次のとおり。

- ① 大阪市消防局としての詳細な実績はないので、総務省消防庁のホームページで公開しているデータを参考にしてほしい。
- ② 昨年のお阪市の救急要請は約19万件（実働16万件）あり、前年より3万件増加している。
- ③ 1回で病院が決まらない件数は58000件（36%）ある。
- ④ 大阪市の救急指定病院は94件あり、消防局は、独自のFOMA回線を利用したりリアルタイム医療検索システムとGPSを利用した車両動態システムから最寄りの病院を検索できるようになっている。
- ⑤ 大阪市の病院収容時間（救急の要請から病院搬送までの時間）は、28.6分（前年は27.4分）であり、他の地域よりかなり早い（全国平均は35.0分、前年は33.4分）。病院収容までの時間が年々延びているのは、救急隊でできる処置が拡大されたことと患者・家族への説明が増えたことも一因であり、一概に病院の受け入れが悪くなったとは判断できない。
- ⑦ 大阪府は、4回以上の拒否件数が多い県のワースト10に入っている。これは、周産期や小児の場合も同様である。受け入れ拒否の理由は、対応中が18.6%、満床24.4%、専門外39.8%である。これらは大阪市消防局もほぼ同様であると思われる。

▷ 委員からの質問

- ① #7119とはどういうものか？
#7119は、緊急時の対応を相談する最初の窓口としての位置づけである。現在は、大阪市のみでなく、範囲が拡大されて周辺の市町村を含めた13市町村で構成されている。まずは相談員が対応し、内容に合わせて常駐する、看護師、医師に対応する人が変わるようになっている。1か月で約15000件の利用がある。
- ② 2例のブルーカードの使用を経験した救急隊の印象について
詳細な報告は聞いていないので分からない。
ブルーカードの使用方法は、まず救急へ連絡ではなくて、まず受け入れ病院に連絡であることを再確認して欲しい。

協議の結果、浪速区内だけでも病院収容時間がさらに短縮するように医師会と消防局が協力し合っていくことで合意した。

6. その他

(1) ブルーカード一般外来患者への発行数について

一般外来患者への登録数は、ある程度、制限した方がよいのではという意見があった。

当面は、登録状況を観察することとなった。

次回の開催日 5月31日（月）7時30分～